

EA21環境経営レポート

取組期間 : 2020年4月～2021年3月

発行日 : 2021年 9月 24日

改定日 : 2021年11月 18日



西ノ洲環境株式会社

目 次

1. 組織の概要	1～7
1) 事業者名及び代表者名	
2) 所在地	
3) 環境責任者氏名及び連絡担当者	
4) 法人設立年月	
5) 主たる事業内容	
6)-1 事業規模(認証済 範囲)	
6)-2 事業規模(今後の拡大認証範囲)	
7) 環境年度(会計年度)	
8) 認証・登録の対象組織図	
9) 対象組織の事業活動の範囲	
10) 許可・登録の内容	
11) 廃棄物の料金体系	
2. EA21推進体制 環境組織図及び設備車両の状況	8～13
2-1.環境組織図	
2-2.EA21推進体制 役割と責任及び権限	
2-3.施設、車両の状況	
3. 環境経営方針	14
3-1 基本理念	
3-2 基本方針	
1)積極的に環境負荷の削減に努める	
2)環境関連法規を遵守する	
3)地地域社会の社会貢献に努める	
4)従業員の環境意識の向上を図る	
5)当社の環境への取り組みを「環境活動レポート」としてホームページに公開する	
4. 環境経営目標	15～16
5. 2020年度 EA21活動実績事項及び計画	17～20
6. 環境経営目標実績	21～22
7. 環境経営目標・活動計画管理表	23
8. 活動の主な取り組み状況	24～25
9. 環境法規一覧表兼 遵守評価表	26～28
10. 環境経営目標の評価と今後の対策(次年度の取組み)	29～30
11. 代表者による全体の評価と見直し記録	31

1. 組織の概要

1) 事業所名及び代表者名

西ノ洲環境株式会社

代表取締役 藤 澤 幹 夫

2) 所在地

本社・営業部

〒870-0903

大分市向原沖一丁目1番63号

日本製鉄事業本部

〒870-0902

大分市西ノ洲一番地日本製鉄構内

3) 環境責任者氏名及び連絡担当者

本社・営業部

[環境管理責任者] 部 長 高 畑 淳 一(2021年 8月1日現在)

[担 当 者] 課 長 東 晃 史(2021年 8月1日現在)

[事 務 局] 係 長 明 石 恵 美(2021年 8月1日現在)

日本製鉄事業本部

[環境管理責任者] 部 長 小 畑 誠 司(2021年 8月1日現在)

[担 当 者] 課 長 釘 宮 健(2021年 8月1日現在)

[事 務 局] 課 長 佐 藤 誠(2021年 8月1日現在)

4) 法人設立年月 昭和60年4月

5) 主たる事業内容

・ビルメンテナンス業

・建設業

・産業廃棄物処理事業

1)一般廃棄物収集運搬量

726t

2)産業廃棄物収集運搬量

1002t

3)一般廃棄物処分量

2528t (リサイクルなし)

4)産業廃棄物処分量

2249t (リサイクルなし)

・浄化槽保守点検業

6)-1 事業規模(認証済 範囲)

・資本金 3千万円

・従業員数 200名(2021年8月1日現在)

・売上高 1,433百万円(2020年度)

・事務所の延床面積

本社 789㎡(3F建て)

日本製鉄事業本部 366㎡(2F建て)

・敷地面積

本社 796㎡

日本製鉄事業本部 7,086㎡

6)-2 事業規模(今後の拡大認証範囲:アクアクララ販売課[飲料水製造・販売事業])

・従業員数 15名(上記内数)

・売上高 181百万円(上記内数)

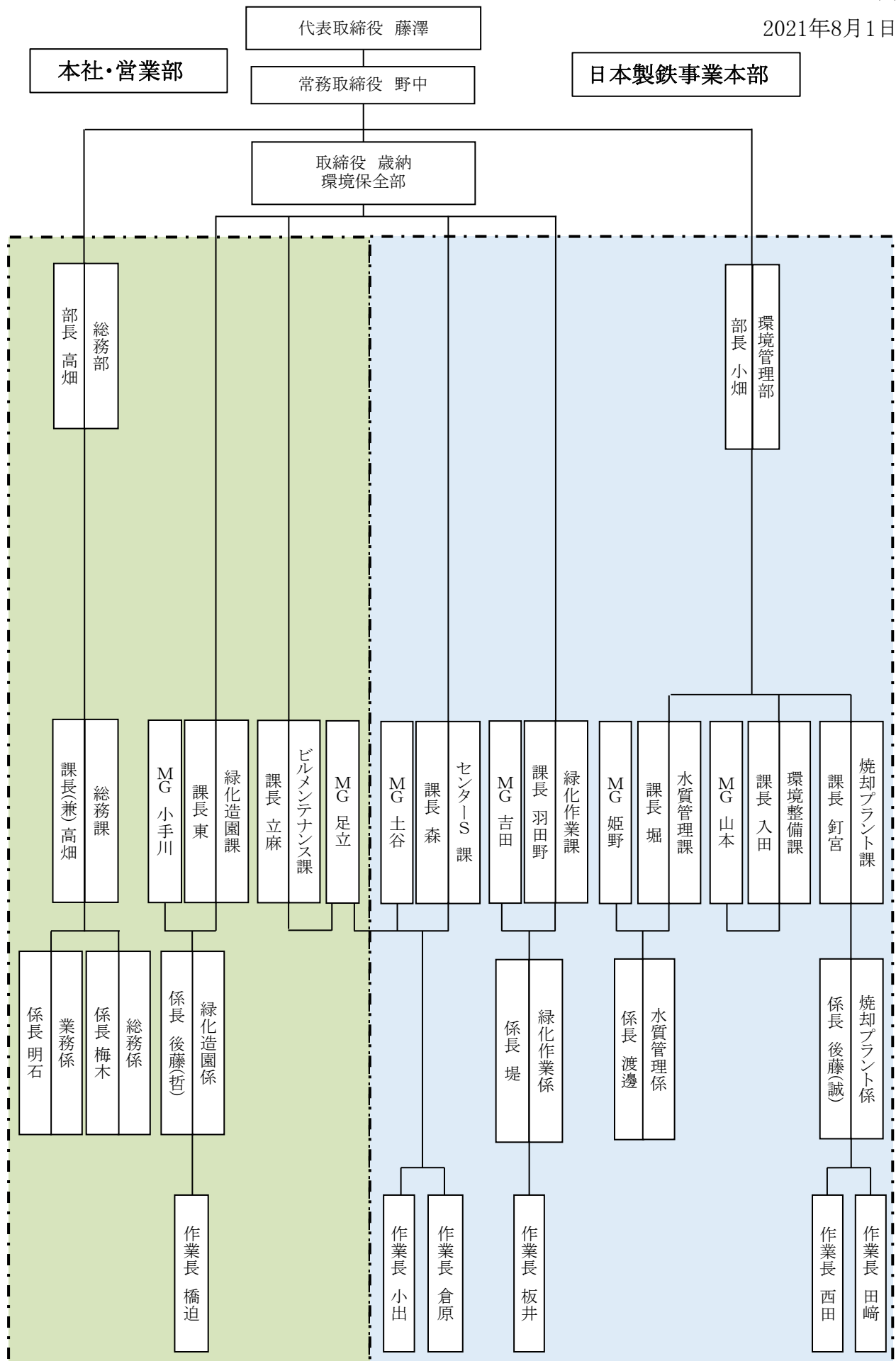
※2022年10月 段階的認証予定

7) 環境経営年度(会計年度) 4月 ～ 3月

8) 認証・登録の対象組織図

西ノ洲環境㈱

2021年8月1日



9) 対象組織の事業活動の範囲

(1) 本社・営業部

① 従業員の給与計算・社会保険の手続き等(総務課)



② 各事業所の清掃作業(ビルメンテナンス課)



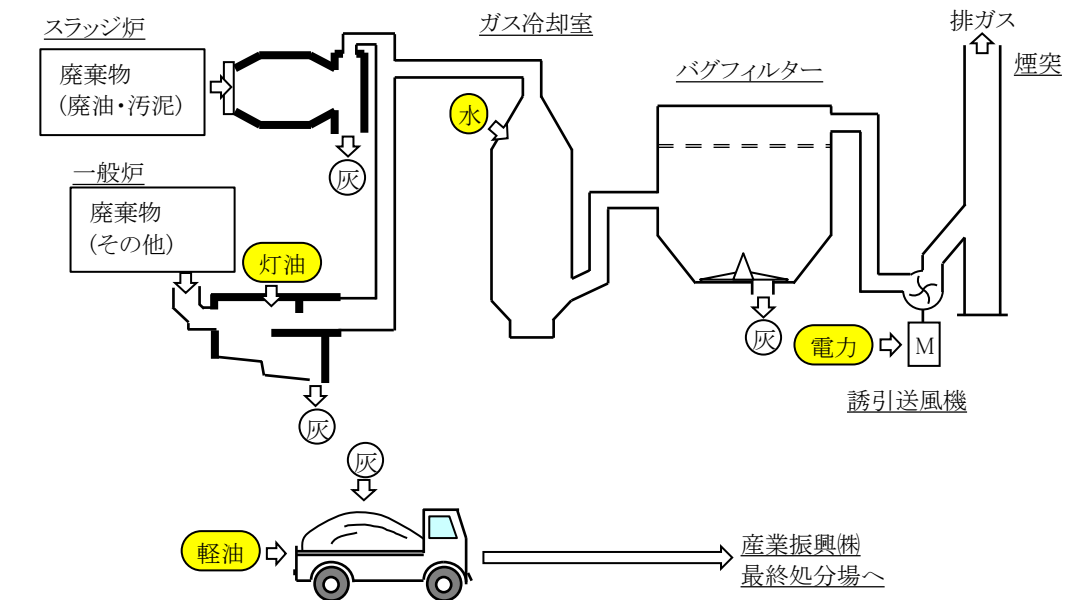
③ 各事業所の緑化維持作業、造園工事(緑化造園課)



(2) 日本製鉄事業本部

① 廃棄物焼却炉設備の運転管理作業(焼却プラント課)

可燃性の廃棄物を焼却し、安全な排ガスと灰にして、地球に返します。



一般炉



スラッジ炉



ガス冷却室



バグフィルター



灰運搬車両

② 廃棄物収集運搬作業(環境整備課)

製鉄所内の事務所・工場から出た廃棄物を処分場に運搬します。



回収車



アームロール車



廃棄物ピット

③構内樹木の維持管理作業(緑化作業課)
製鉄所内の樹木や草生地での維持管理作業。

樹木剪定作業



剪定枝粉碎作業



チップ敷均し作業



草刈り作業

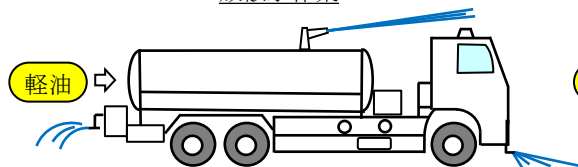


刈草敷均し作業

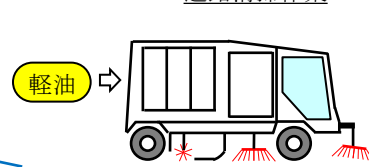


④大型特殊車両(放散水車、清掃車)による発塵防止対策作業(環境整備課)
道路の汚れを水で洗浄・清掃や、未舗装地に水を撒いて発塵を防ぎます。

放散水作業



道路清掃作業

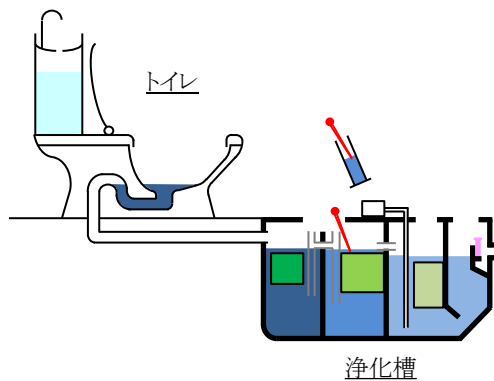


放散水作業



道路清掃作業

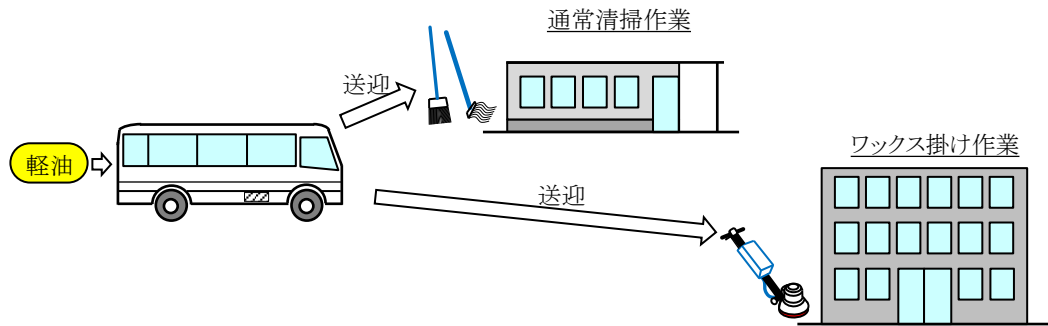
⑤構内浄化槽設備の維持管理作業(水質管理課)
浄化槽(275台)の点検・整備で維持管理を行います。



浄化槽点検作業

⑥構内事務所の清掃作業(センターS 課)

製鉄所の各事務所に清掃員を送迎し、フロア等の清掃を行います。



送迎車輛



ワックス掛け作業

10) 許可・登録の内容

(1) 本社・営業部

① 建築物清掃業

② 建築物飲料水貯水槽清掃業

③ 特定建設業

④ 一般建設業

許可番号 大分県9清第10-48号

許可番号 大分県6貯第102-5号

許可番号 大分県知事 許可(特-26) 第7346号

許可番号 大分県知事 許可(般-26) 第7346号

(2) 日本製鉄事業本部

① 産業廃棄物処理業

番号	許可の名称	自治体	許可番号	許可年月日
			事業の区分	許可の有効年月日
	産業廃棄物の種類			
1	産業廃棄物収集運搬業	大分市	0880001729	2020年5月31日
			収集運搬(積替え保管なし)	2025年5月30日
	燃え殻、汚泥(有機汚泥及び無機汚泥)、廃油、廃プラスチック(全ての管理型産業廃棄物であるものを除く。)、金属くず(全ての管理型産業廃棄物であるものを除く。)、ガラスくず及び陶磁器くず(全ての管理型産業廃棄物であるものを除く。)、廃アルカリ、ばいじん、紙くず、木くず、繊維くず、ゴムくず、がれき類、施行令第2条13号に掲げる産業廃棄物(以上14種類。ただし、石綿含有廃棄物を含み、特別管理産業廃棄物であるものを除く。)			
2	産業廃棄物処分業	大分市	0882001729	2020年5月31日
			中間処理:(焼却)	2025年5月30日
	汚泥(有機汚泥及び無機汚泥)、廃油、金属くず、廃プラスチック、ガラスくず及び陶磁器くず、廃アルカリ、紙くず、木くず、繊維くず、ゴムくず(以上10種類。ただし、石綿含有廃棄物を含み、特別管理産業廃棄物であるものを除く。)			

② 事業系一般廃棄物運搬業

許可の名称	事業系一般廃棄物収集運搬業	自治体	大分市
許可年月日	2020年4月1日	許可番号	5207
許可の有効年月日	2022年3月31日	収集運搬の区分	収集・運搬
一般廃棄物の種類	紙くず・木くず・繊維くず・動植物性残さ・その他事業系一般廃棄物		
運搬車両の種類及び台数	キャブオーバー6台、バン1台、コンテナ車1台、パッカー車4台、ダンプ2台		

③ 浄化槽保守点検業

登録年月日	2019年3月17日
登録番号	大分市 第3号
登録の有効期限	2019年3月17日から 2022年3月16日まで

④産業廃棄物処理施設

項目 \ 名称	一般炉	スラッジ炉
許可番号	大分市指令清管第719号	大分市指令清管第718号
許可年月日	2003年3月19日	2003年3月19日
設置場所	大分市大字西ノ洲1番地	大分市大字西ノ洲1番地
処理施設の種類	廃プラスチック類の焼却施設 その他の焼却施設 (施行令第7条第8号かつ第13号の2に規定する焼却施設)	汚泥の焼却施設 廃油の焼却施設 (施行令第7条第3号かつ第5号に規定する焼却施設)
産業廃棄物の種類	廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、ゴムくず、金属くず、ガラスくず及び陶磁器くず	汚泥、廃油
処理能力	28.56t／日(24時間)	9.6t／日(24時間)
処理方式	焼却(ストーカー炉)	焼却(キルン炉)

*処理工程図は9) 対象事業所の事業活動の範囲(1)廃棄物焼却炉設備の運転管理作業(焼却プラント課)を参照

11) 廃棄物処理料金

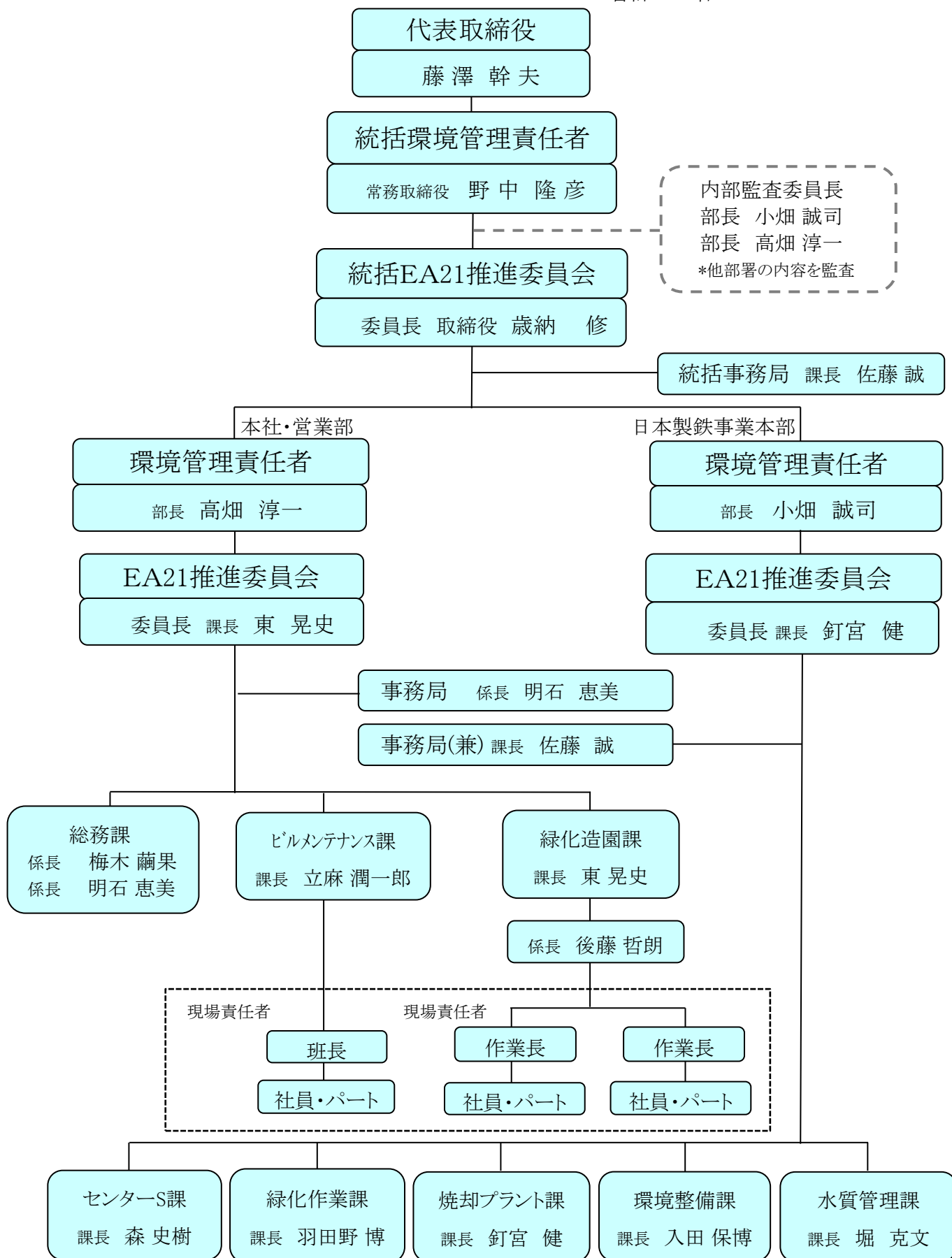
日本製鉄株式会社 九州製鉄所 大分地区と協議により取り決める。

2.EA21推進体制 環境組織図及び設備車両の状況

作成日： 2014年7月9日

更新日： 2021年7月1日

合計:200名



2-2. EA21推進体制 役割と責任及び権限

1)統括管理体制

職 名	役 割
統括環境管理責任者 野中 隆彦	①各事業所より提出された、環境経営システムの統合・調整に関する責任者 ②環境経営システムの運用、管理状況を代表者に報告する ③統括エコアクション21推進委員会の責任者 ④全体の環境経営目標、環境経営活動計画、実施体制の確認 ⑤全体の環境上の緊急事態の想定及び対応策の承認 ⑥全体の問題点の是正及び予防処置の確認 ⑦環境経営活動レポートの確認
統括EA21推進委員会 委員長 歳納 修 臨時開催	①環境経営目標、環境経営活動計画の調整 ②各所の実施状況、目標達成状況、問題点などの確認 ③各所の環境経営活動に関する意見交換窓口
統括EA21事務局 佐藤 誠	①統括環境管理責任者の補佐、統括エコアクション21推進委員会の事務局 ②全体の環境関連文書、記録の管理 ③全体の環境経営活動に関する実績のとりまとめ ④環境経営活動レポートの作成

2)本社・営業部

職 名	役 割
代表取締役 藤澤 幹夫	①環境経営に関する統括責任者 ②環境経営に必要な経営資源(人・物・資金)を準備する ③環境管理責任者の任命 ④環境経営方針を定める ⑤環境経営目標及び環境経営活動計画、実施体制を承認する ⑥代表者による全体の評価と見直しを実施する ⑦環境経営活動レポートの承認
環境管理責任者 高畑 淳一	①環境経営システムを構築、運用、管理に関する責任者 ②環境経営システムの運用、管理状況を統括環境管理責任者に報告する ③エコアクション21推進委員会の責任者 ④環境関連法規等のとりまとめ表の承認、遵守状況チェック結果の承認 ⑤環境経営目標、環境経営活動計画、実施体制の確認 ⑥環境上の緊急事態の想定及び対応策の承認 ⑦問題点の是正及び予防処置の承認 ⑧環境経営活動レポートの確認
EA21推進委員会 委員長 東 晃史 定例会議(1回/月)、臨時	①環境経営目標、環境経営活動計画の伝達 ②各部門の実施状況、目標達成状況、問題点などの報告 ③環境経営活動に関する意見交換
EA21事務局 明石 恵美	①環境管理責任者の補佐、エコアクション21推進委員会の事務局 ②環境関連文書、記録の管理 ③環境経営活動に関する実績のとりまとめ ④外部コミュニケーションに関する窓口 ⑤当該事業所の環境活動レポートの作成

職 名	役 割
対象部門所属長 各部 課長、係長、主任	①自職場における環境経営活動計画の企画 ②自職場の環境経営活動の推進 ③自職場の環境経営活動実績の評価、報告 ④自職場に必要な手順書等の作成、管理 ⑤自職場の問題点の発見及び是正、予防処置を実施する ⑥自職場の問題点から、改善テーマを部員に与え、推進し、発表させる
全従業員	①環境経営方針、環境経営目標などの理解と自らの役割を自覚する ②改善テーマの検討、対策の立案・実行、発表に参加する ③自主的、積極的に環境活動に参加する

3) 日本製鉄事業本部

職 名	役 割
代表取締役社長 藤澤 幹夫	①環境経営に関する統括責任者 ②環境経営に必要な経営資源(人・物・資金)を準備する ③環境管理責任者の任命 ④環境経営方針を定める ⑤環境経営目標及び環境経営活動計画、実施体制を承認する ⑥代表者による全体の評価と見直しを実施する ⑦環境経営活動レポートの承認
環境管理責任者 小畑 誠司	①環境経営システムを構築、運用、管理に関する責任者 ②環境経営システムの運用、管理状況を代表者に報告する ③エコアクション21推進委員会の責任者 ④環境関連法規等のとりまとめ表の承認、遵守状況チェック結果の承認 ⑤環境経営目標、環境経営活動計画、実施体制の確認 ⑥環境上の緊急事態の想定及び対応策の承認 ⑦問題点の是正及び予防処置の承認 ⑧環境経営活動レポートの確認
EA21推進委員会 委員長 釘宮 健 定例会議(1回/月)、臨時	①環境経営目標、環境経営活動計画の伝達 ②各部門の実施状況、目標達成状況、問題点などの報告 ③環境経営活動に関する意見交換
EA21事務局 佐藤 誠	①環境管理責任者の補佐、エコアクション21推進委員会の事務局 ②環境関連文書、記録の管理 ③環境経営活動に関する実績のとりまとめ ④外部コミュニケーションに関する窓口 ⑤当該事業所の環境活動レポートの作成
対象部門所属長 各課 係長・作業長	①自職場における環境経営活動計画の企画 ②自職場の環境経営活動の推進 ③自職場の環境活動実績の評価、報告 ④自職場に必要な手順書等の作成、管理 ⑤自職場の問題点の発見及び是正、予防処置を実施する ⑥自職場の問題点から、改善テーマをGr員に与え、推進し、発表させる
全従業員	①環境経営方針、環境経営目標などの理解と自らの役割を自覚する ②改善テーマの検討、対策の立案・実行、発表に参加する ③自主的、積極的に環境活動に参加する

2-3. 施設、車輛の状況

1) 本社・営業部

(1) 社屋

A. 施設名

『ゼロエネルギービル』西ノ洲環境株式会社 本社
地球温暖化に伴うCO₂削減策の一環としてビルが
使用する電力エネルギーをビル自体が創造するとの
コンセプトで建設[平成25年2月4日 竣工]

B. 構造

鉄筋コンクリート

C. 規模・設備 地上3階建て

- ① 3階屋上部分(196㎡)に太陽光発電システム設置
- ② 2階屋上部分(90㎡)に天然芝緑化システム設置
- ③ ペアガラス・熱線吸収反射ガラスを採用
- ④ 駐車場に透水性アスファルト舗装を採用
- ⑤ 人感ムーブアイを搭載した空調(エアコン)設備を導入
- ⑥ 照明器具に全館LEDを採用

② 屋上緑化システム



- ・夏季の室温上昇の軽減、冬季の保温効果
- ・植物によるCO₂削減の推進

① 太陽光発電システム

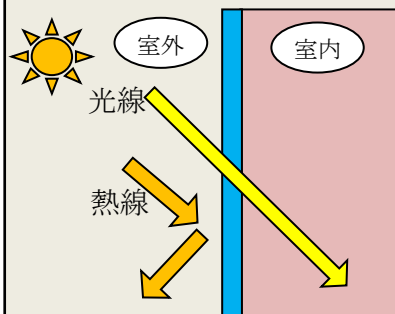


- ・発電全量を九州電力㈱へ売電

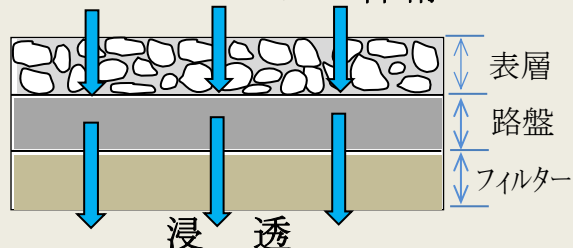


③ 熱線反射ガラス

- ・光線は透過し熱線を遮断する



④ 透水性アスファルト舗装 降雨



- ・雨水が地下に浸透し、ヒートアイランド現象を緩和

2)車輜

①総務課

車 両 名	数 量	燃料種別	備 考
プリウス	1台	ガソリン	5人乗り ハイブリット車
アクア	1台	ガソリン	5人乗り ハイブリット車
小計	2台		

②緑化造園課

車 両 名	数量	燃料種別	備 考
2tダンプ	2台	軽油	
4tユニック	1台	軽油	2.9t吊り荷重
ピックアップ	1台	軽油	
軽バン	2台	ガソリン	
軽トラック	2台	ガソリン	
パッカー車	1台	軽油	
バックホー	1台	軽油	0.08m ³
バックホー	1台	軽油	0.016m ³
小計	11台		

③ビルメンテナンス課

車 両 名	数量	燃料種別	備 考
連絡車1号	1台	ガソリン	トヨタハイエース9人乗り
連絡車2号	1台	ガソリン	軽バン
連絡車3号	1台	軽油	トヨタハイエース9人乗り
連絡車4号	1台	ガソリン	軽トラック
小計	4台		

(2)日本製鉄事業本部

(1)焼却関連

設備名称	能力	数量	備 考
前処理設備	1.5t/H	1基	
廃棄物焼却炉	1.19t/H	1基	
スラッシュ焼却炉	0.4t/H	1基	
排ガス処理設備	22,500Nm ³ /H	1基	Wetベース
BF灰固化設備	20kg/回	1基	

3)浄化槽

設備名称	能力	数量	備 考
浄化槽設備ブロワー	0.2～0.75kw	283台	構内直、協の合計管理台数

4)車輜

①センターサービス課

車 両 名	数量	燃料種別	備 考
マイクロ1号車	1台	軽油	29人乗り
マイクロ2号車	1台	ガソリン	10人乗り
連絡車1号	1台	軽油	トヨタハイエース(9人乗り)
連絡車2号	1台	軽油	日産モコ(9人乗り)
連絡車3号	1台	ガソリン	軽バン
小計	5台		

②緑化作業課

車 両 名	数量	燃料種別	備 考
チップーシュレッダー	1台	軽油	4m ³
4tユニック	1台	軽油	吊り荷重:3.9t
2tトラック	3台	軽油	
大型乗用草刈り機	1台	軽油	2,197L
小型乗用草刈り機	1台	ガソリン	653cc
小計	7台		

③焼却プラント課

車 両 名	数量	燃料種別	備 考
4tダンプ	1台	軽油	
ホイローダー	1台	軽油	
バックホー	1台	軽油	
小計	3台		

④環境整備課

車 両 名	数量	燃料種別	備 考
放水1号車	1台	軽油	12m ³ 、放水ポンプ専用サブエンジン搭載
放水2号車	1台	軽油	16m ³ 、放水ポンプ専用サブエンジン搭載
放水3号車	1台	軽油	12m ³ 、放水ポンプ専用サブエンジン搭載
放水4号車	1台	軽油	12m ³ 、放水ポンプ専用サブエンジン搭載
放水5号車	1台	軽油	12m ³ 、放水ポンプ専用サブエンジン搭載
放水6号車	1台	軽油	12m ³ 、放水ポンプ専用サブエンジン搭載
放水7号車	1台	軽油	12m ³ 、放水ポンプ専用サブエンジン搭載
放水8号車	1台	軽油	16m ³ 、放水ポンプ専用サブエンジン搭載
放水9号車	1台	軽油	16m ³ 、放水ポンプ専用サブエンジン搭載
4t散水車	1台	軽油	4m ³
大型道路清掃車1号	1台	軽油	
大型道路清掃車2号	1台	軽油	
大型道路清掃車3号	1台	軽油	
大型道路清掃車4号	1台	軽油	
4t塵芥車	2台	軽油	
2t塵芥車	1台	軽油	
3.5tアームロール車	1台	軽油	
4tアームロール車	1台	軽油	
2tトラック車	1台	軽油	
2tダンプ車	1台	軽油	
小計	21台		

⑤水質管理課

車 両 名	数量	燃料種別	備 考
点検車	6台	ガソリン	
小計	6台		

3. 環境経営方針

3-1. 基本理念

当社は、昭和60年4月、新日鐵(株)大分製鐵所(現日本製鐵(株)九州製鐵所 大分地区)の協力会社として構内の緑地管理、各事務所清掃、廃棄物収集運搬焼却処理、放散水車の運転、浄化槽の保守点検業務等の環境に係る業務等を受託すると共に、日本製鐵(株)以外にも、公共・民間工事及び緑地維持管理を主とした緑化造園、並びに清掃作業を主としたビルメンテナンスの業務にも取り組み 今に至っています。

昨今、地球温暖化等で当社を取り巻く情勢が変化していく中で、環境に関わる企業として明日(次世代)の地球環境により良い影響を残すため、地域社会に貢献し積極的に環境問題に取り組んで参ります。

3-2. 基本方針

- 1) 積極的に環境負荷の削減に努める
 - (1) 各燃料使用量の削減活動の推進
 - (2) 電力の省エネ化の推進
 - (3) 廃棄物の削減
- 2) 環境関連法規及び関連する協定(日本製鐵事業本部)を遵守する
- 3) 地域社会との融和を図り環境管理活動を通じ地域に貢献する
- 4) 全従業員にこの環境方針を徹底し、環境意識の向上と改善活動推進のため、教育訓練を計画的に実施する
- 5) 当社の環境への取り組みを「環境経営活動レポート」としてホームページに公開する

制定日:2014年8月1日

改定日:2020年10月1日

代表取締役 **藤澤 幹夫**

4. 環境経営目標

(1)本社・営業部

作成 2020年5月15日
改定 2021年8月10日

代表者	環境管理責任者	作成
藤澤	高畑	東

【各年度の対象期間は、決算年度4月～翌年3月】

環境負荷 軽減の番号	環境経営目標	基準年度 2019年度実績	2020年度 目標	2021年度 目標	2022年度 目標
1)	二酸化炭素排出量削減 (CO2排出量*1)	37,399 kg-CO ₂	△0.5% 37,212	2020年度実績比 ±0 42,501	2020年度実績比 ±0 42,501
(2)	電力消費量削減 (電気消費量)	31,501 kWh	基準年度比 △0.5% 31,343	2020年度実績比 ±0 35,006	2020年度実績比 ±0 35,006
(1)	ガソリン消費量削減 (ガソリン消費量)	4,737 L	基準年度比 △0.5% 4,713	2020年度実績比 ±0 5,800	2020年度実績比 ±0 5,800
(1)	軽油消費量削減 (軽油消費量)	5,895 L	基準年度比 △0.5% 5,866	2020年度実績比 ±0 6,435	2020年度実績比 ±0 6,435
(4)	水使用量削減	319 m ³	基準年度比 △0.5% 317	2020年度実績比 ±0 391	2020年度実績比 ±0 391
(4)	雨水の活用	460 L	基準年度維持 460	基準年度維持 460	基準年度維持 460
1)	環境と安全に配慮した 施工管理	-	・器具使用燃料の適正管理 ・機械・農薬・薬品の適正管理 ・作業前TBYを必ず実行する		
(3)	廃棄物排出量削減 (剪定木くず、産業廃棄物)	100%	100%再資源化		
3)	社会貢献への参加	12回	取り組み事項 の検討	毎月1日、朝の20分間に 近隣道路等のゴミ拾い実施	
4)	従業員の教育・訓練	12回	技術研鑽の 方策検討	技術向上の為の研修会 の実施	

*1:2019年度の電気事業者別二酸化炭素排出係数:0.347kg-CO₂/kWh(九州電力㈱,2020.9.15)を
採用

(2)日本製鉄事業本部

作成日 2020年5月12日

改定日 2021年8月11日

代表者	環境管理責任者	作成
藤澤	小畑	釘宮

【各年度の対象期間は、決算年度4月～翌年3月】

環境負荷 軽減の番号	選択課題	基準年度 2019年度実績	2020年度 目標	2021年度 目標	2022年度 目標
1)	二酸化炭素排出量削減 (CO2排出量)	1,181,541 kg-CO ₂	△0.5% 1,175,633	2020年度実績比 ±0 1,189,815	2020年度実績比 ±0 1,189,815
(2)	焼却炉電力削減 (電力使用原単位削減)	322 kWh/t (5144t)	基準年度比 △0.5% 320	2020年度実績比 ±0 338	2020年度実績比 ±0 338
(1)	焼却炉灯油削減 (灯油使用原単位削減)	12.38 L/t (5144t)	基準年度比 △0.5% 12.32	2020年度実績比 ±0 15.35	2020年度実績比 ±0 15.35
(1)	液化石油ガス消費量削減 (LPG消費量)	0 kg	実績管理		
(1)	ガソリン消費量削減 (ガソリン消費量)	10,014 L	実績管理		
(1)	軽油削減(焼却P課) (軽油使用原単位削減)	0.238 L/t (5144t)	基準年度比 △0.5% 0.237	2020年度実績比 ±0 0.227	2020年度実績比 ±0 0.227
(1)	軽油削減(センターS課) (燃費向上)	4.91 km/L (54800km)	基準年度比 0.5% 4.93	2020年度実績比 ±0 4.79	2020年度実績比 ±0 4.79
(1)	軽油削減(環境整備課) (燃費向上)	1.71 km/L (270012km)	基準年度比 0.5% 1.72	2020年度実績比 ±0 1.62	2020年度実績比 ±0 1.62
(3)	廃棄物排出量削減 (廃棄物排出量)	0 t	実績管理		
(4)	水削減 (水使用原単位削減)	6.06 m ³ /t (5144t)	基準年度比 △0.5% 6.03	2020年度実績比 ±0 6.18	2020年度実績比 ±0 6.18
3)	社会貢献への参加		日本製鉄(株)九州製鉄所ボランティア活動 :クリーンアップ大分への参加 他 各種ボラ ンティアへの参加		

※1:2019年度の電気事業者別二酸化炭素排出係数:0.347kg-CO₂/kWh(九州電力(株),2020.9.15)https://ghg-santeikohyo.env.go.jp/files/calc/r02_coefficient_rev.pdf

5. 2020年度 環境経営目標活動項目及び計画実施状況

(1)本社・営業部

2021年8月16日

----▶ :計画 —▶ :実行

環境 経営 目標	活 動 項 目	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	評 価
活動 準備	1.環境方針策定(前年度策定、変更なし)															
	2.現状把握															
	1)環境への負荷	→														
	2)取組状況の把握・評価															
	(1)自己チェックリストの作成	→														
	(2)評価	→														
	3.環境目標・活動計画の策定															
	1)目標の策定(前年度策定、変更)	→														
	2)施策の決定		→													
	3)資料のまとめ				→											
二酸化炭素 排出量削減	3.計画の実行															
	電力量をDOWNさせる(総務課・緑化造園課・ビルメンテナンス課)															
	①執務室内空調設定温度を基本(夏場28℃・冬場20℃)にする					→										×
	②エアコンのフィルター清掃を定期的(月1回)に行なう															○
	③エアコン室外機熱交換器の洗浄を定期的(月1回)に行なう															○
	④使用していない照明は消灯する															○
	⑤使用していない機器は、コンセントからは外す															○
	⑥帰宅時、必要以外の機器は、コンセントからは外す															○
	⑦パソコンを省電力設定にする															○
	⑨啓蒙活動(電気スイッチプレートに『こまめに消灯!』シールを貼付する)															○
	燃料給油量をDOWNさせる(総務課・緑化造園課・ビルメンテナンス課)															
	①アイドリングストップの励行とエコドライブの徹底															○
	②急発進・急加速・急ブレーキをしない安全運転の励行															○
	③法定速度を遵守した運転の励行															○
	④適正なタイヤ空気圧での走行(給油時、測定)															○
	⑤給油時、満タンにせず半分(20L)給油する															○
	⑥車輛管理(5,000km走行時、オイル交換を行なう)															○
	⑦車輛の中に要らない荷物は積まない															○
	⑧啓蒙活動(車輛に燃費向上を促すシールを貼付する)															○
	⑨夏場のエアコン使用を控え目にし、車内を冷やし過ぎない様にする															○
排水 量削減	水使用量をDOWNさせる(総務課・緑化造園課・ビルメンテナンス課)															
	①不要な水の使用を抑え、節水する															
	1)啓蒙活動(節水プレート作製・設置)															○
	2)コップ洗い、業務車輛洗車時、水の出しっぱなし禁止)															○
	3)雨水タンクの利用(除草剤散布用等の水)															○
配 慮 環 境 と 安 全 施 工 管 理	4)モップやタオルを洗う際は、バケツに水を入れ洗うようにする															○
	現場移動時の燃料使用量削減(緑化造園課・ビルメンテナンス)															
	①現場に応じた必要最小限の車両を配置する															×
	②移動前ミーティング時に使用機材、器具の再確認をする															○
	機器使用燃料の適正管理(緑化造園課・ビルメンテナンス課)															
	①倉庫内専用保管棚で施錠管理を行う															○
	②現場では直射日光を避け保管する															○
	③機材への給油時は受け皿を使用する															○

環境 経営 目標	活 動 項 目	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	評 価
環境と安全に 配慮した施工管 理	機械・農薬・薬品の適正管理(緑化造園課・ビルメンテナンス課)															
	①倉庫内機械器具置き場を明確にする															○
	②農薬・薬品は倉庫内専用保管棚で施錠管理を行う															○
	③農薬・薬品は不要な在庫を持たない															○
排出量 削減	剪定木くず、産業廃棄物排出量削減(緑化造園課)															
	①100%再資源化を目指す															○
社会 への 参 加 献	社会貢献への参加(総務課・緑化造園課・ビルメンテナンス課)															
	①毎月1日、朝の20分間に近隣道路等のゴミ拾いを実施する															○
	②年1回の会社行事後、実施場所の清掃活動を行う															×
従業 員 の 教 育 ・ 訓 練	従業員の教育・訓練(総務課・緑化造園課・ビルメンテナンス課)															
	①技術向上の為の研修会の実施															○
	②年1回防災訓練を行う															×

(2-1)日本製鉄事業本部(ベース活動)

2021年9月14日

---->:計画 -->:実績

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	評価
1.環境方針策定(変更)									→						
2.現状把握															
1)環境への負荷(再評価)	→	→													
2)取組状況の把握・評価															
(1)自己チェックリストの作成	→	→													
(2)評価	→	→													
3.環境目標・活動計画の策定															
1)目標の策定	→					→									
2)施策の決定		→	→												
3)資料のまとめ				→	→										
3.計画の実行															
1)センターS 課															
(1)ESTRA-Webの活用で無駄な燃料使用の削減(急発進・急加速)															○
(2)事務所内裏紙使用の徹底と仕組み作り															○
(3)事務所内昼食時間内の節電															○
(4)節水(清掃作業時での水の流し放した状態にしない・雨水の再利用)															○
(5)電池使用箇所を全て充電式電池に変更する															○
【改善】定期清掃ワックス適量使用による統一化															○
2)緑化作業課															
(1)剪定枝をチップ化して、草生地に敷き込み緑地整備。	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	○
(2)草生地の整備を行ない、草刈の効率を向上。(燃料の削減)															○
(3)動工具類の整備・調整による、使用燃料の削減。															△
(4)作業車輛運転は、急発進・急加速運転を行わない。															○
(5)詰所・倉庫の電源・エアコンを退室時に切る。															○
【改善】草刈作業の効率化	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	△
3)水質管理課															
(1)点検での回送時、急加速をしない															△
(2)こまめな消灯															△
(3)【改善】浄化槽薬剤の削減															△
4)環境整備課															
(1)急加速をしない															○
(2)円滑なシフトチェンジ															○
(3)道路洗浄作業終了後、サブエンジンをカットする															○
(4)タイヤ空気圧点検、補充によりタイヤ消耗の軽減と燃費の向上															△
(5)管理者、車輛添乗による運転指導															○
【改善】タイヤ空気圧の定期点検によりタイヤ消耗軽減															×
5)焼却炉プラント課															
(1)道工具使用時以外はコンセントプラグを外す															○
(2)車両運転時、アクセルを踏み込み過ぎない															○
(3)加熱後4時間後より、30分おきに温度チェック															○
(4)こまめな照明の消灯															○
(5)4tダンプの積載注意(3t未満にする)															○
(6)法の遵守(燃焼温度等)															○
【改善】加熱タンク電力使用量削減															○
項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	-
4.取組状況の確認評価															
(1)データのまとめ	(次年度)													→	
(2)分析						(次年度)								→	
5.評価と見直し															
(1)評価						(次年度)								→	
(2)見直し						(次年度)								→	
6.活動資料のまとめ						(次年度)								→	

2020年度 EA21活動計画2(改善活動詳細)

2021年8月31日

1) センターS 課

テーマ: 定期清掃ワックス適量使用による統一化

(1)現状把握 ・食堂でのワックス使用量 1750mlを使用している。 ・女性達はそれぞれ自己流で各々で塗っている。	(2)要因の分析 ・適正使用量を女性が知らない。	(3)目標: 女性にワックス使用量を教育し統一化する。
		(4)対策: ・女性に現場にてOJTを教育する。

反省: 適正使用量で塗る事で床の品質維持向上(抗菌、防カビ、汚れ防止)に繋がった。

2) 緑化作業課

テーマ: 草刈作業の効率化

(1)現状把握 ① 草生地が狭いので刈払機での草刈が多くなり、作業時間が多くなる。 ② 自走式草刈機の利用者が少ない。 (刈払機より自走式草刈機の作業量の増加で燃料が削減する。)	(2)要因の分析 ① 自走式草刈機の稼働率が 増えれば、作業効率UP。 ② 草生地を整備して、幅を 広げる。	(3)目標: 自走式草刈機の稼働率UP (4)対策 ① 新たにハンマーナイフを導入して 狭い草生地でも刈れ、効率が上がった。 ② 自走式草刈機の勉強会実地訓練を 行ない、利用者を増加させた。
--	--	--

反省: 草生地の整備に時間が取られたが、その分自走式の作業エリアが増加して作業効率は上がった。これから機械の熟練度の向上を目指す

3) 水質管理課

テーマ: 浄化槽薬剤の削減

(1)現状把握 ① 薬剤は水温が高い夏場に消費が 激しい ② 大別して2種類の薬剤設置装置が ある ③ 設置装置の使い方が統一出来て いない ④ 課員の薬剤のコスト意識が希薄	(2)要因の分析 ① 薬剤の浸け方の調整を していない ② 薬剤を投入する量が統一 されていない(教育出来ていな い) ③ 検査時に薬剤が無いと指導 通告があるので多めに投入	(3)目標: 薬剤10%削減 (4)対策 ① 薬棒タイプは水面から5mmまで浸ける ② 薬筒タイプ a. 薬筒流量調整不可は目張りにて b. 薬塔筒調整可は水接地面を調整 c. 薬筒流量調整可は消毒槽で調整
--	--	---

反省: 8%削減と目標は達成できませんでした、更なる改善を考え削減を実施します。

4) 環境整備課

テーマ: タイヤ空気圧の定期点検によりタイヤ消耗軽減

(1)現状把握 ① 月1回、車輛の空気圧を測定し記録 する ② 空気圧の低下したままの車輛もあり、 タイヤのバランスも悪い ③ 運転技術の平均化	(2)要因の分析 ① 空気圧の測定 ② タイヤ交換の頻度調査	(3)目標: ①業務車輛タイヤ交換本数6本削 減 (4)対策 ① タイヤ空気圧点検により、適正圧を維持 し燃費向上、消耗軽減を図る
---	--------------------------------------	---

反省: 特別対応等により稼働時間の増加により走行距離の増によりタイヤ交換本数削減目標は未達となりました。

5) 焼却プラント課

テーマ: 加熱タンク電力使用量削減

(1)現状把握 ・加熱タンクヒーター不良時には温水のみでグ リースの加熱を行っている。 ・温水のみでグリースの加熱をした場合、約 50℃まで加熱をすることができる。	(2)要因の分析 ・加熱タンクヒーターを使用する前に 温水でグリースを加熱しておけば、 タンクヒーターの使用時間を短縮す ることができる。	(3)目標: 加熱時の年間電力使用量の削減 (4)対策 ・グリース加熱時の温水通水方法の確立
--	---	--

反省: 温水通水方法が確立できた。次年度は確立した温水通水方法を確実に実行する。

6. 環境経営目標実績

(1) 本社・営業部

環境目標	基準年度(2019年度)		目標	2020年度(実績)		削減量		2019-2020 実績対比・ 対策減効果	対目標	備考
	エネルギー量	kg-CO ₂		エネルギー量	kg-CO ₂	対2016	対目標			
二酸化炭素排出量の削減 (エネルギー使用量の合計)		37,399	kg-CO ₂ 37,212 (△0.5%)	-	42,501	5,102	kg-CO ₂ 5,289	13.6%増	14.2%増	
エネルギー使用のCO ₂ 削減	電力使用削減 (事務所照明、空調)	kWh 31,501	kWh 10,931 31,343 (△0.5%)	kWh 35,006	kWh 12,147	kWh 3,505	kWh 3,663	11.1%増	11.7%増	
	化石燃料削減				(30,354)	0		14.7%増		
	ガソリン	L 4,737	L 10,998 4,713 (△0.5%)	L 5,800	L (13,466)	L 1,063	L 1,087	22.4%増	23.1%増	
	軽油	L 5,895	L 15,470 5,866 (△0.5%)	L 6,435	L (16,888)	L 540	L 569	9.2%増	9.7%増	
水使用量削減	水使用量	m ³ 319	m ³ - 317 (△0.5%)	m ³ 391	m ³ -	m ³ 72	m ³ 74	22.6%増	23.2%増	
	雨水使用量	L -	L - 500	L 460	L -	L -	L -40			
環境と安全に配慮した 施工管理	-		90%	90%				・修理出来る道具は補修し再利用 ・情報を共有し作業効率を図った		
廃棄物排出量削減 (剪定木くず、産業廃棄物)	100%		100%	100%				100%再資源化達成		
社会貢献への参加	12回		12回	12回				・毎月1日事務所周辺の ゴミ拾い活動実施		
従業員の教育・訓練	12回		12回	12回				・毎月1回技能向上の為 の講習会実施		

※1: 2019年度の電気事業者別二酸化炭素排出係数: 0.347kg-CO₂/kWh(九州電力株),
https://ghg-santeikohyo.env.go.jp/files/calc/h31_coefficient_rev.pdf

(2)日本製鉄事業本部

選択課題	基準年度(2019年度)		目標	2020年度(実績)		削減量		'19-'20 実績対 比・対策 減効果	対目標	主な改善 取り組み	備考
	エネルギー量 [原単位]	kg-CO ₂		エネルギー量 [原単位]	kg-CO ₂	対2019	対目標				
① エネルギー使用の CO ₂ の削減		1,181,541	kg-CO ₂ 1,175,633 (△0.5%)		1,202,198	20,657	26,565	1.7%増	2.3%増	-	
エネルギー使用のCO ₂ の削減他	電力使用削減 (動力、照明 他)	kWh 1,669,520	579,323	kWh 1,661,172 (△0.5%)	kWh 1,629,823 (565,549)	kWh -39,697	kWh -31,349	2.4%減	1.9%減	-	
	電力削減 焼却P課 動力	kWh/t [322] (5144t)	575,207	kWh/t [320] (△0.5%) (4777t)	kWh/t [338] (560,994)	kWh/t [16]	kWh/t [18]	5.0%増	5.6%増	-	
	事務所 照明	kWh 11,863	4,116	kWh 11,804 (△0.5%)	kWh 13,126 (4,555)	kWh 1,263	kWh 1,322	10.6%増	11.2%増	-	
	化石燃料削減		602,218		(636,650)			5.7%増		-	
	焼却P課 灯油	L/t [12.38] (5144t)	159,243	L [12.32] (△0.5%) (4777t)	L [15.35] (183,278)	L [2.96]	L [3.03]	23.9%増	24.6%増		停止頻度増
	焼却P課 LPG	kg	0		0 (0)	kg 0		-		-	
	軽油	L 170,375	442,975	L 169,523 (△0.5%)	L 174,374 (453,372)	L 3,999	L 4,851	2.3%増	2.9%増	-	
	焼却P課	L/t [0.238] (5144t)	3,182	L/t [0.237] (△0.5%) (4777t)	L/t [0.227] (2,818)	L/t [-0.011]	L/t [-0.010]	4.6%減	4.2%減	-	
	センターS 課	km/L [4.91] (54800km)	29,021	km/L [4.93] (0.5%) (51418km)	km/L [4.79] (27,885)	km/L [-0.12]	km/L [-0.14]	2.3%減	2.8%減	作業車エコ 運転他	
	環境整備 課	km/L [1.71] (270012km)	410,771	km/L [1.72] (0.5%) (260391km)	km/L [1.60] (422,669)	km/L [-0.11]	km/L [-0.12]	6.3%減	6.7%減	作業車エコ 運転他	生産活動 増含む
	緑化作業課廃 棄物量削減(計 より除外)	t 0.0	0	t 0	t 0 (0)	t 0	t			剪定屑 チップ化利用	
	水使用量削減	m ³ /t [6.06] (5144t)		m ³ /t [6.03] (△0.5%) (4777t)	m ³ /t [6.18] (4777t)	m ³ /t [0.12]	m ³ /t [0.15]	1.9%増	2.4%増	-	
② 社会貢献 への参加								-			

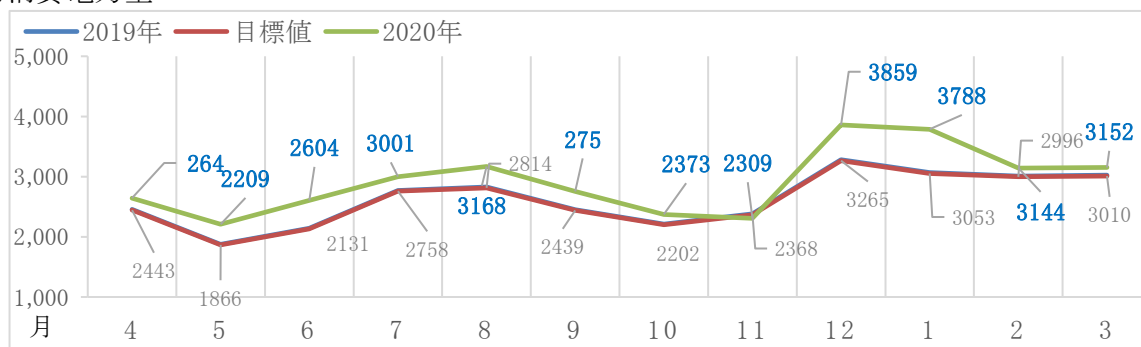
※1:2019年度の電気事業者別二酸化炭素排出係数:0.347kg-CO₂/kWh(九州電力㈱),https://ghg-santeikohyo.env.go.jp/files/calc/h31_coefficient_rev.f(3)統合したCO₂排出量

	基準年度	目標	実績	対基準年度	対目標
本社・営業部	37,399	37,212	42,501	13.64%	14.21%
日本製鉄事業本部	1,181,541	1,175,633	1,202,198	1.75%	2.26%
合計	1,218,940	1,212,845	1,244,699	2.11%	2.63%

7. 環境経営目標・活動計画管理表

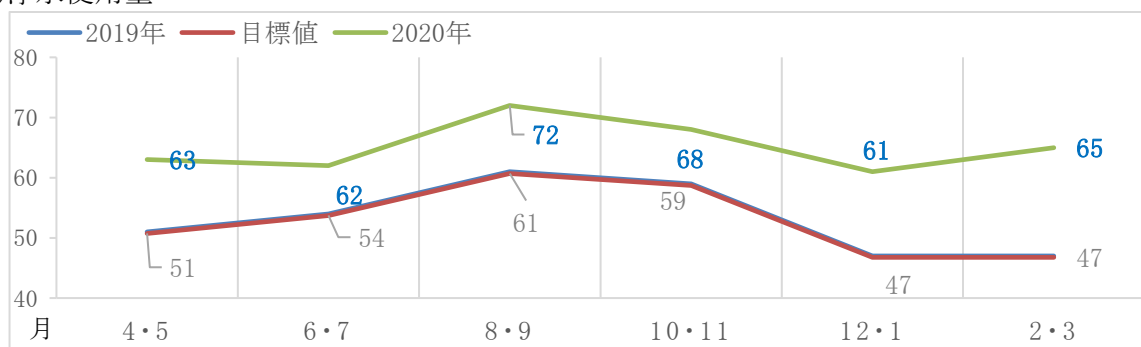
(1) 本社・営業部

1) 消費電力量



コロナウイルス感染対策で常時換気を行い、エアコンの温度で室温を調整をした為、電力使用量の増加となった。

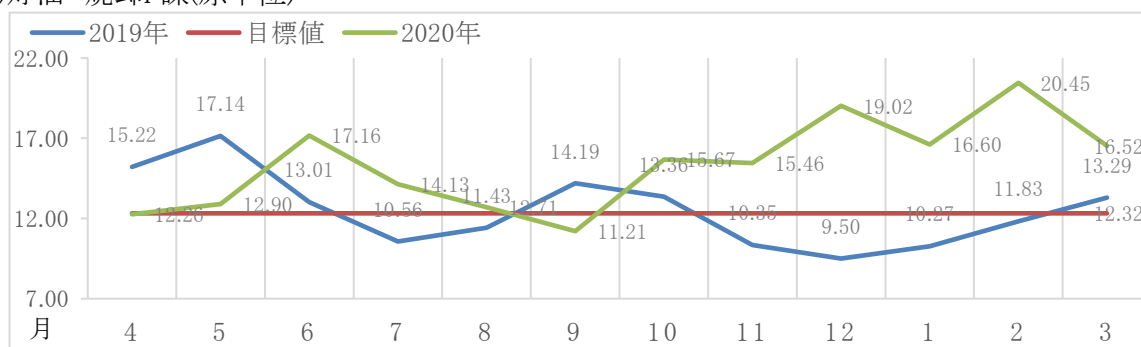
2) 浄水使用量



コロナウイルス感染対策で手動式蛇口のセンサー感知式への交換や従業員へこまめな手洗い励行の徹底等により水使用量が増加となった。

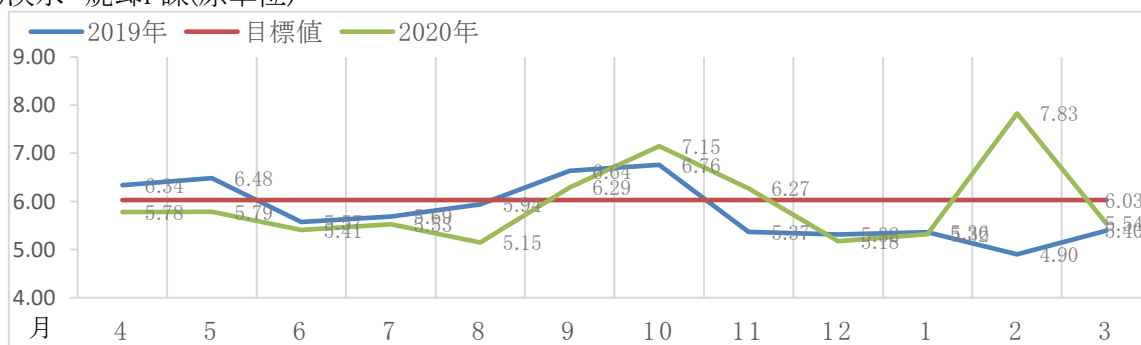
(2) 日本製鉄事業本部

1) 灯油 焼却P課(原単位)



昨年に引き続き停電や修理による休止の為、立上・立下げの頻度増が灯油の使用量増加につながり目標の達成が出来なかった。

2) 淡水 焼却P課(原単位)



10月・2月に高熱量の廃棄物を焼却したことで、原単位が上がり目標が達成出来なかった。

8. 活動の主な取り組み状況

1. 電力使用量削減

- ・エアコンフィルター清掃
- ・室外機の清掃



2. 燃料使用量削減

- ・ガソリン車20ℓ、軽油車30ℓ給油の徹底
- ・現場への稼働車両のスリム化
- ・各車両の啓発シール貼付での呼びかけ



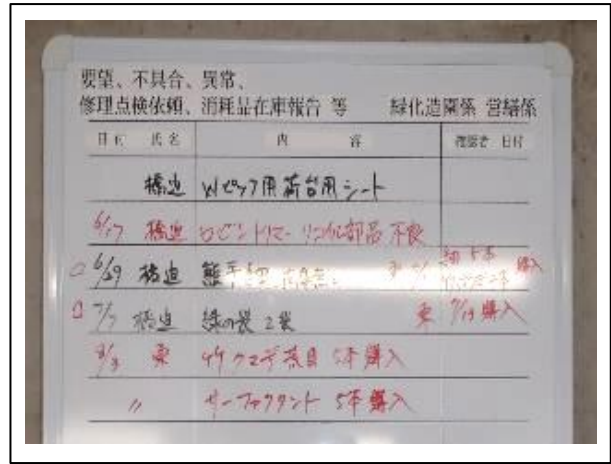
3. 水使用量削減

- ・水道口の吐水量を調整
- ・各水道口への啓発プレート設置
- ・雨水タンクの活用
 - ① 道具洗浄
 - ② 洗車時タイヤ洗浄



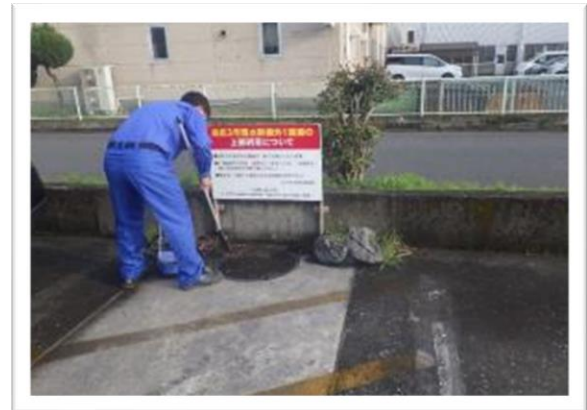
4. 環境と安全に配慮した施工管理

- ・道具を修理し再利用
- ・情報を共有し作業の効率化を図る



5. 社会貢献

- ・毎月1日、本社周辺の清掃活動
- ・社内行事後の清掃活動
- ※コロナ対策により社内行事中止



6. 従業員教育・訓練

- ・ヒューマンエラー教育(2021/1/7)
- ・大分労働局主催オンラインセミナー(2021/3/2)



参加無料

同一労働同一賃金 オンラインセミナー

～「パートタイム・有期雇用労働法」で求められる企業の対応～

令和3年4月1日(から中絶)に適用される「パートタイム・有期雇用労働法」の改正が実施されます。この改正は、パートタイム・有期雇用労働者の待遇を正社員と同等にするためのものです。この改正は、パートタイム・有期雇用労働者の待遇を正社員と同等にするためのものです。この改正は、パートタイム・有期雇用労働者の待遇を正社員と同等にするためのものです。

セミナーの概要

- ・改正法に求められる企業の対応について
- ・改正法に求められる企業の対応について
- ・改正法に求められる企業の対応について
- ・改正法に求められる企業の対応について

令和3年3月2日(水) 14時00分～15時30分

※参加費：無料(ただし、会場利用料がかかります)

9. 環境法規一覧及び遵守状況

(1)本社・営業部

代表者	環境管理責任者	作成
藤澤	高畑	東

作成日 2021年8月20日

関係法令・適用条項	要求事項	確認者	確認 年月日	遵守 状況
建設リサイクル法	工事に係わる分別、再資源化の実施 再資源化完了の書面報告	東 晃史	2021.8.16	○
グリーン購入法 (第5条)	できる限り環境物品等を選択するよう努める	東 晃史	2021.8.16	○
道路交通法	全条項適用	東 晃史	2021.8.16	○
フロン抑制排出法	廃棄時の適正処理 エアコン等設備の自主点検の実施	東 晃史	2021.8.16	○
廃棄物処理法	産業廃棄物の運搬 マニフェスト伝票管理	東 晃史	2021.8.16	○
オフロード法	特定特殊自動車の定期検査・日常点検等	東 晃史	2021.8.16	○
森林法	主伐・間伐に係わる行政の許可・通知・届出	東 晃史	2021.8.16	○
自動車リサイクル法	リサイクル料支払い(発生時のみ) 廃棄時の適正処理(発生時のみ)	東 晃史	2021.8.16	○
下水道法	公共下水道管理者にあらかじめ提出 生活環境項目については、条例による	東 晃史	2021.8.16	○

*1:遵守評価の結果、環境法規の違反はありません。又、関連当局からの指導や訴訟もありません。

*2:苦情なし。

(2) 日本製鉄事業本部

作成日	改訂日	承認者	作成者
2014.9.17	2018.11.5	野中 隆彦	佐藤 誠

記録日	記録者
2021.8.30	佐藤 誠

環境関連法規等の取りまとめ		遵守状況のチェック結果			
法律名等	要求事項	確認方法	確認結果	評価	チェック者
廃棄物処理法 (産業廃棄物の処理)	保管基準の遵守	現地にて状態を確認	○	廃棄物置き場は飛散も無く、看板に汚れも無く適正に維持できていた	釘宮 健
	許可業者への委託	帳簿にて確認	○	収集運搬は日進メンテナンス、処分は、産業振興のみでいずれも許可を持っていた	釘宮 健
	委託基準の遵守	委託契約書を確認	○	特に問題はなかった	釘宮 健
	管理票(マニフェスト票)の交付	帳簿にて確認	○	収集運搬は日進メンテナンス、処分は、産業振興のみであった	釘宮 健
	管理票(マニフェスト票)の写しの保存期間	マニフェスト保管庫を確認	○	5年前の確認マニフェスト出来た	釘宮 健
	管理票(マニフェスト票)の写しの送付を受けるまでの期間	電子マニフェストシステムにより確認	○	システムにより警告の機能があるが全て期限内に処理出来ていた	後藤 誠
	産業廃棄物処分受託者の管理票保管義務	マニフェスト保管庫を確認	○	5年前のマニフェストが確認出来た	釘宮 健
	処理終了後の報告	担当者と承認者を決めチェックを行う	○	収集運搬は担当:神河、承認:原田/処分は担当:後藤、承認:佐藤で行っていた	釘宮 健
	中間処理受託者の報告	担当者と承認者を決めチェックを行う	○	担当:後藤、承認:釘宮で行っていた	釘宮 健
	産業廃棄物処理業の収集・運搬業の許可	大分市のみ 許可取得済み (許可証確認)	○	許可証期限を確認し期限内であった	佐藤 誠
	産業廃棄物処理業の処分業の許可	大分市のみ 許可取得済み (許可証確認)	○	許可証期限を確認し期限内であった	佐藤 誠
	産業廃棄物処理業の処理基準	現場にてパトロール実施により確認	○	毎月、マニフェスト交付内容等の確認を行い良好であった	原田 亮輔 (収運) 釘宮 健 (処分)
	帳簿の管理	帳簿にて確認	○	5年前の帳簿まで確認出来た	釘宮 健
	産業廃棄物処理施設	許可証にて確認	○	許可証の確認が出来た	釘宮 健
	産業廃棄物処理施設の維持管理	操業データにて確認	○	-	釘宮 健
	産業廃棄物処理施設の維持管理の公表	HPにて前月実績を公表	○	-	釘宮 健
	投棄禁止	現場にてパトロール実施により確認	○	パトロールで廃棄物の投棄は見られなかった	釘宮 健
	焼却禁止	現場にてパトロール実施により確認	○	パトロールで廃棄物の投棄は見られなかった	釘宮 健
	水銀等処理物の埋立基準に関する措置	1回/月の溶出試験により確認	○	全て基準値以下であった	釘宮 健

環境関連法規等の取りまとめ		遵守状況のチェック結果			
法律名等	要求事項	確認方法	確認結果	評価	チェック者
大気汚染防止法	ばい煙測定結果の判断	トレンドグラフにて確認	○	本年度から製鉄所より新たな基準が設けられた	釘宮 健
	変更時の申請	年度末に届け出内容の確認	○	都度届け出が行っていた	佐藤 誠
	ばい煙測定の実施結果の保存	年度末に測定報告書の確認	○	半年ごとの測定の実施を確認出来た	釘宮 健
	協定値の遵守	トレンドグラフにて確認	○	各協定値以内であった	釘宮 健
	水銀排出施設の変更届	年度末に測定報告書の確認	○	該当事項はなかった	佐藤 誠
	水銀測定結果の判断	トレンドグラフにて確認	○	排出基準値以下であった	釘宮 健
	水銀測定の実施結果の保存	年度末に測定報告書の確認	○	該当事項はなかった	釘宮 健
ダイオキシン類対策特別措置法	排出基準	トレンドグラフにて確認	○	排出基準値以下であった	釘宮 健
	特定施設の構造等の変更の届出	年度末に届け出内容の確認	○	該当事項はなかった	佐藤 誠
	氏名の変更等の届出	年度末に届け出内容の確認	○	該当事項はなかった	佐藤 誠
	排ガスの測定	トレンドグラフにて確認	○	排出基準値以下であった	釘宮 健
	燃え殻・ばいじんの測定	トレンドグラフにて確認	○	排出基準値以下であった	釘宮 健
	報告	年度末に報告内容の確認	○	報告書を確認出来た	釘宮 健
	協定値の遵守	トレンドグラフにて確認	○	排出基準値以下であった	釘宮 健
PRTR法	排出量等の把握及び届出	6月末に報告内容の確認	○	報告書を確認出来た	佐藤 誠
	変更時の申請	年度末に届け出内容の確認	○	該当事項はなかった	佐藤 誠
消防法	点検の実施	年度末に点検結果の確認	○	点検報告書の確認が出来た	釘宮 健
	変更時の申請	年度末に届け出内容の確認	○	該当事項はなかった	釘宮 健
大分市火災予防条例	指定数量未満の危険物の貯蔵・取り扱い基準	取扱い時・各施設点検時確認	○	取扱い時・点検時確認出来た	釘宮 健
騒音規制法	特定施設の数等の変更の届出	年度末に届け出内容の確認	○	該当事項はなかった	佐藤 誠
道路交通安全法	安全運転管理者等	年度末に届け出内容の確認	○	該当事項はなかった	山本 進
毒物及び劇物取締法	毒物又は劇物の取扱	現地にて施錠・台帳を確認	○	施錠・台帳が確認できた	森 史樹
	毒物又は劇物の表示	現地にて表示を確認	○	表示に汚れ破損がないことを確認	森 史樹
フロン排出抑制法	管理第一種特定製品の点検に関する事項	点検簿にて確認	○	点検簿にて漏れ等がないことを確認出来た	佐藤 誠
浄化槽法	保守点検	月末に点検内容の確認	○	点検内容を確認し良好であった	姫野 敏雄
	条例による浄化槽の保守点検を業とする者の登録制度	年度末に許可証を確認	○	期限内であった	姫野 敏雄

*1:遵守評価の結果、環境法規の違反はありません。又、関連当局からの指導や訴訟もありません。

*2:苦情なし。

10. 環境目標の評価と今後の対策(次年度の取組み)

(1)本社・営業部

環境目標		目標達成率	評価	達成状況と今後の対策
二酸化炭素排出量削減		87.6%	×	取り組みの結果、+14.2%で目標未達。 今年度はコロナウイルス感染対策を最優先とした為、従来通りの取組みが出来ず目標未達となった。 次年度は優先事項を把握した中で、出来る範囲の取組み内容を再考する。
エネルギー使用量	電力消費量削減 (電気消費量)	89.5%	×	取り組みの結果、+11.7%で目標未達。 コロナウイルス感染対策で常時換気を行ない、エアコンの設定温度で室温調整を行なった為、電気消費量が増えた。 この状況下が当面変わらないと踏まえ、次年度の目標を修正し、取組み内容の再考を図る。
	ガソリン消費量削減 (ガソリン消費量)	81.3%	×	取り組みの結果、+23.1%で目標未達。 熱中症対策の強化により休憩所を確保する為、車両を休憩所として使用する頻度が増えた。コロナウイルス感染対策により3密を回避する為、移動台数を増やした事も要因。電気消費量同様、目標を修正、取組み内容の再考を図る。
	軽油消費量削減 (軽油消費量)	91.2%	×	取り組みの結果、+9.7%で目標未達。 ガソリン消費量と同様な要因があり軽油消費量も増加。 上記同様、次年度の目標を修正し、取組み内容の再考を図る。
水使用量削減		81.1%	×	取り組みの結果、+23.2%で目標未達。 コロナウイルス感染対策で手動式蛇口のセンサー感知式への交換や従業員へのこまめな手洗い励行の徹底等、衛生面を優先した為、水使用量の増加へ繋がった。 上記同様、次年度の目標を修正し、取組み内容の再考を図る。
環境と安全に配慮した施工管理		90.0%	○	破損道具の補修による再利用は継続中。 情報を共有し、道具機器、薬品等の管理を明確化する事で作業の安全、効率化に努めた。
廃棄物排出量削減 (剪定木くず、産業廃棄物)		100.0%	○	剪定木くずは、100%再資源化を維持出来ている。 次年度も引き続き行なう。
社会貢献への参加		100.0%	○	月1回社屋周辺の清掃活動は継続中。 コロナウイルス感染防止対策の為、社内行事が中止となり公共施設清掃活動も実施出来ず。
従業員の教育・訓練		100.0%	○	毎月1回の教育・訓練は継続中。 次年度も引き続き行なう。 年1回の防災訓練は日程調整がつかず未実施。 次年度では課別の小規模訓練も視野に入れ、計画通りの実施を目指す。

(2)日本鉄事業本部

環境目標		目標 達成率	評価	達成状況と今後の対策
二酸化炭素排出量削減		97.8%	×	夏場の熱中症対策に加え、コロナウイルス拡大防止の為に換気によるエアコンの出力増等で目標未達に終わった。コロナウイルスの収束が未定の為、今後の目標を2020年度実績に修正。
エネルギー 使用量	焼却炉電力削減 (電力使用原単位)	94.7%	×	例年よりも設備修理等による炉の冷却時間が長く廃棄物を焼却していないタイミングでのIDFの稼働が多く発生し、電力使用量は減少したが原単位は増加してしまい目標が達成できなかった。 今後も補修の機会は多くなるが、2023年度に大規模な修繕を計画している。
	焼却炉灯油削減 (灯油使用原単位)	80.3%	×	取り組みの結果、原単位・使用量共に増加した。原因は、9・10・11・2月に立ち上げ火落としの機会が多く、灯油の使用量増加につながった為で、停電・修繕・故障の頻度を減らすことが、引き続き今後の課題となる。
	軽油削減(焼却P課) (軽油使用原単位削減)	104.3%	○	取り組みの結果、原単位・使用量共に減少した。使用量の減少は、休止による燃え殻運搬頻度の低減によるもので、原単位の減少はアクセルワーク等の更なる運転技術の向上だと推測される。(作業時間が短い為、熱中症対策の影響を比較的受けにくい)
	軽油削減(センターS課) (燃費向上)	97.2%	×	昨年の取組の暖気運転の短縮による、燃料使用量の削減と、業務対応の変化(送迎割合減、移動割合増)による、アイドリング時間の減少での燃費向上がベースでの目標設定であったが、コロナウイルス対策にて、若干燃費が低下した。今後は、2020年度をベースに目標を設定する。
	軽油削減(環境整備課) (燃費向上)	93.3%	×	取り組みの結果、原単位・使用量共に増加した。原因は、燃費の悪い(機能が違う)清掃4号車の導入と、例年通りの熱中症対策にてエアコンの常時使用による燃費の低下と思われる為、2020年度をベースに目標を再設定する。
水使用量削減 (水使用原単位削減)		97.6%	×	使用量は減少したが、原単位は焼却量が減った為、増加してしまった。一時的に発熱量の高い廃棄物を処理した時期があった為、高いレベルでの目標を達成出来なかった。また、浄水に関しては、手洗いの励行により増加傾向にある為、一旦2020年度をベースに目標を設定する。
社会貢献への参加		-	×	コロナウイルス拡大防止の為に、行事が軒並み中止となった為、未達成。

11. 代表者による全体の評価と見直し記録

代表者	環境管理責任者	記入者
藤澤	高畑・小畑	釘宮・東

作成日 2021年9月22日

評価対象の期間	実施期間(2020年4月～2021年3月)の活動
---------	--------------------------

本社・営業部			
見直し実施日	2021年9月13日14時30分～	場所	本社2F 中会議室
出席者	代表者:藤澤 幹夫 EA21推進委員長:歳納 修(統括)・ 東 晃史 環境管理責任者:高畑 淳一 事務局:明石 恵美		
日本製鉄事業本部			
見直し実施日	2021年9月17日10時00分～	場所	本社2F 中会議室
出席者	代表者:藤澤 幹夫 EA21推進委員長:歳納 修(統括)・ 釘宮 健 環境管理責任者:小畑 誠司 事務局:佐藤 誠		

環境情報	環境管理責任者の所見	代表者コメント
1. 環境関連法規等の遵守状況確認結果	日本製鉄の要請を受け、ばい煙測定の結果に関し過去の測定値から策定される基準を適用し、基準を外れた場合は重点施設として原因の究明と対策及び自主測定の実施を行う事となった。	取引先からの要請に対応することはもちろん、提案が出来るよう日頃から各部門が自職場の出来る事、またはこれから取り組みたい事を考えていってほしい。
2. 環境経営目標の達成状況	本年度は、コロナウイルス感染拡大防止本社も日本製鉄事業本部も、CO ₂ の削減目標を達成できなかったが、新ガイドラインに沿った活動が出来たと思います。外部の状況が変化中、取組を活かし経営課題の解決に尽力したい。	目標未達に終わったが、原因もはっきりしており、自社努力にも限界があるので一旦目標を修正し、別の所に注力していきたい。また、新ガイドラインの1年目なので、旧ガイドラインとの差異を確認しながらしっかり対応をしてほしい。
3. 環境経営活動計画の実捗状況	特に問題はなかった	継続する
4. 問題点の是正、予防の状況	特に問題はなかった	問題なし
5. 外部からの苦情の有無及び対応結果	苦情は、1件もなかった	問題なし
6. 環境上の緊急事態の訓練結果及び対応結果	コロナウイルス感染拡大防止の為、訓練の実施が難しかったが、一部は実施できた。	出来る範囲で良いので、訓練若しくは訓練に替わるものを、確実に実行してほしい。
7. その他	特に報告事項はなかった	問題なし

前年度問題点の是正及び指示事項

項目	問題点、指示事項	今年度の結果
特になし	-	-

見直しの必要性判断と代表者の指示

①環境方針	新ガイドラインに適応するよう変更
②環境目標	2020年度実績を元に変更
③環境活動計画	目標に合わせ変更
④環境経営システム	新ガイドラインに適応するよう変更
その他の指示	特に無し

総括

新ガイドライン1年目となったが、本社・日本製鉄事業本部共に大きな混乱もなく移行できたと認識している。環境経営目標に関しては未達の項目が多かったが、自社努力を十分に行った結果と報告を受けている。今後は目標の修正で対応を行って、闇雲に数値の削減を追求するのではなく、経営課題に関する部分を本システムを通じて解決していきたい。
また、アクアクララ販売課に関しても次年度からシステム導入に向け現状の把握を進めていってほしい。